



稚内港小学校

学校だより

令和2年4月20日 462号

「なんでもできる みなとなら」今こそ！

校長 川原 修子

港小学校2年目となりました。昨年は、港の素晴らしさをたくさん発見し、感動しました。中でも最も尊いと感じたのは、子どもたちの心の育ちです。互いを思いやる様子が、生活の中あちこちにちらばっています。上学年が下学年をかわいがり、丁寧に教えたり、論じたりするのは日常で、同じクラスの中でも、互いに助け合う姿をよく見かけます。半面、人を傷つけるような言葉や態度をとることを見たことはほとんどありません。だからと言って、びくびく付き合っているのでは全くなく、のびのびと互いに声をかけあい、笑い合い、時にはたしなめ合ったりもしています。前校長先生は、これは「港の文化」だと教えて下さいました。脈々と、面々と続いてきた子どもの中に流れる文化が、子どもたちの中に根付いているのだそうです。確かに、学校で強い指導がされているわけでは決してありません。「自然に」という言葉がぴったりの行動なのです。地域の皆さんが、普通に続けてきた互いを思う背中が、子どもたちの中に見えます。

題名の「なんでもできる みなとなら」は、現在稚内南中学校1年生になった山上 柊也君が5年生の時に作った川柳で、私の大のお気に入りの言葉となりました。言葉には力があります。素敵な言葉には、人を励まし、力づけ、優しさや勇気をくれます。柊也君がつくった川柳は、港小文化・歴史の象徴に思えます。

苦しさをどう乗り越えていくのか、全世界が問われています。苦しさを逃れるために、悪者を作り、少しでも安心するような考え方は、孤立を生みます。誰もが苦しいことをわかり合い、自分だけではない、協働しよう！助け合おう！そう思える港の子どもたち・地域の底力が生きてくるのは今です。必ず乗り越えていけます。そう感じさせてくれる港小を誇りに思います。

地域の皆様、集うことができず、孤独を感じるかもしれませんが、それは決して孤立ではありません。港の子どもたちを育ててくださった皆様です。背中を見て学んだ子どもたちが、しっかり頑張っています。共に語り合える日が一日も早く来ることを望みながら、地域の皆様と共に、港小学校も元気に進みます！よろしくお願いいたします。

令和2年度入学式

4月8日、令和2年度稚内港小学校の入学式を行いました。ピカピカの1年生11名が入学しました。担任の先生に名前を呼ばれた新1年生の皆さんは、元気な返事ができました。新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、新入生とその保護者、一部の教職員のみの参加での入学式となりましたが、元気いっぱい、楽しみいっぱいの学校生活がスタートしました。



令和2年度1学期始業式

4月7日（火）、令和2年度がスタートしました。始業式は、新型コロナウイルス感染予防のため、間隔を十分とった並び方で、短時間で行いました。それぞれ一学年が進級し、気持ちも新たにスタートしました。



また、令和2年度前期児童会役員任命式を行いました。活躍が期待されます。